

## 2021年3月期 決算説明会における主な質疑応答内容の要旨

この質疑応答集は、2021年5月13日（木）に行われたアナリスト・機関投資家向けテレフォンカンファレンスにて、ご参加の皆様から頂いた主なご質問をカテゴリー別にまとめたものです。理解促進のため一部内容の加筆修正を行っております。

### **Q：新型コロナウイルスの影響による顧客ニーズの変化を教えてください。**

A：新型コロナウイルス感染症拡大による生活様式の変化により、食生活も変化しており、加工食品、ペースト状の調味料など家庭で使用する製品の需要が増えています。また、現在の外食産業は非常に厳しい経営状態に置かれている中で、人件費の削減や作業の簡便化を進める動きがあり、当社のスープ、調味料が利用される局面が増えてくと予測しています。

当社の強みとして、外食各社が今後新たに加工食品のジャンル進出する際、小袋や粉末で提供できるノウハウがすでにあります。今後この市場が拡大することは大いに期待できます。同業他社との差別化ポイントとして、美味しさと本格的風味のベースとなるだしの抽出技術、伝統的な調理工程を工業的に再現できる調理設備、半世紀にわたり蓄積された技術やノウハウがあり、あらゆる顧客ニーズに貢献できる生産体制が整っています。当社独自の技術をいかに発揮すれば、社会の急激な変化が結果的に当社の成長を加速させることになると考えています。

### **Q：海外事業の戦略、収益予想について教えてください。**

A：まず、中国事業の足元の状況は順調で、原料の調達から生産、販売まで問題なく事業が行えており、外食、コンビニともに順調に伸びています。同国のEC市場への参入も視野に入れていきます。ヨーロッパでは新たな設備投資が2件予定されています。ひとつはフランス工場のスプレードライヤーで、来年前半に完成予定です。完成後は粉体製品をヨーロッパで拡販していく計画です。もうひとつはベルギー工場、UHT設備を導入して無菌包装したスープを製造するプロジェクトを進めており、再来年からの生産を目指します。

また、今期の収益予想については、アジアは今後トップラインが改善していくことと、コスト構造の見直しを行い収益性を上げる計画を立てています。インドネシアは現地通貨ベースで黒字になり、今後順調に利益を伸ばして参ります。ヨーロッパについてもトップラインの改善が収益性に反映され、収益構造が改善していくことが期待されます。

以上